

## 先生のようにになりたい

夢が決まらずに悩んでいた私に教師への道を示してくれたのは、私が小学校1年生の時の担任の先生でした。

私の出身小学校は大堂津にある小学校で、当時1年生だった私の担任は『スーパーティーチャー』と呼ばれる方でした。スーパーティーチャーがどんなものなのかを知ったのは小学校の高学年になる時で、それまでは、『なんだか凄い人』と、ぼんやりとした認識でした。その先生を私が凄いと強く感じたのは、道徳の時間です。道徳の副読本を進めていくだけでなく、その都度関係のあるようなお話を私たちに分かるように説明してくれ、なおかつ、それが眠くならないのです。

いじめがどんなもので、どんなに卑怯で悲しい行為なのかをしっかりと私たち生徒に教えてくれたのも先生でした。私たちのクラスにいじめがなかったのも、おそらくはそれが理由なのではと思うほどでした。授業での教え方、字の綺麗さ、人への接し方、先生はどれも完璧で、成長した今、改めてそれが深く理解できます。

高校3年の冬、センター試験が間近に迫っていたにも関わらず、私にははっきりとした夢が決まっていませんでした。公務員を目指すか、教師としての道を歩むか、そんな悩みを抱えていた私は、近所のスーパーで先生と再会したのです。「夢が決まらないんです。」とそれとなく言葉をこぼした私に、先生は、「やってみたい、と少しでも思えることをしなさい。夢というのは、あなたがひとりで描くものじゃありません。家族や友人とだれかとあなたが揃ってはじめて夢の一步を踏み出せるんですよ。」と私に言って、温かいココアを買ってくれました。家に帰って、私はその言葉の意味をずっと考えて、教師になろうと決めました。どんなに困難でも、私には家族や友人がいて、いつでも私を助けてくれました。私は教職に就いて、たくさん子どもたちに、いろいろなことを教えていきたいと思いました。何より、先生のようにになりたいという気持ちも芽生えていました。私に教職に就きたいと思わせてくれた先生のように、子どもたちが先生になりたいと思うような、そんな人に私もなりたいたいと思いました。

今、私は大学で教師になるための勉強をしています。先生方の講義を受け、自らの知識にし、少しずつ教職に向けて努力をしています。大学を卒業し、小学校が私の職場となるよう、頑張っていこうと思っています。

蛸原 花音  
(大学生)